

# オーシャンズ ―ぱあ!また出た!

外国語学部 英語英文学科2年

下村 ゆい  
木村 有美  
佐藤 静香

## 1. They Are Back!!

2007年夏、シリーズ作品最高峰の映画が、日本で公開となった。今回で、3作目となるこの作品は、1作目の時点で「集まった事が奇跡」とまで映画界に言わしめていた。そんな作品が、3作まで続いたのも奇跡的なことである。なぜ、こんなにまで奇跡を連呼するかと言うと、理由は一つ、出演者のほとんどが、主演級の俳優だからである。まず、オーシャンズのリーダーであるジョージ・クルーニーに始まり、最近では、社会問題やフィクションを中心とした映画で活躍中の、ドン・チードルまで、幅広い分野で活躍中の俳優を集めた映画なのである。

そこで、この映画がなぜ、豪華セレブ俳優のパーティー映画にならずに、毎回多くの人々を

魅了する、クールな映画の代名詞になることが

出来たのかを検証していきたい。そして、その中で、毎回重要な役割を持ち、この映画の**3大主演俳優**とも言える、**主要3人**の、映画での役割や、魅力を紹介していく。また、彼らを紹介するにあたり、紹介する人物が変わる毎に、筆者も変わっていくことにも注意してもらいたい。

私たちの文章

の個性を生かし、適切な人物に割り当てた。適材適所、まさに実生活でのオーシャンズである。



## 2. ① オーシャン (ジョージ・クルーニー)

☆

クールな犯罪チームのリーダー、**ダニエル・オーシャン** (ジョージ・クルーニー)。毎回、幅広い友好関係の中から、選りすぐりの人材を集め、大金を稼いでいる。しかし、情に厚い性格のため、事の発端となるのは、彼の「情」関係の事が多い。記念すべき1作目は、妻 (ジュリア・ロバーツ) の「愛情」を取り戻すために仕事を始める。2作目は、**オーシャン**より**ラスティ** (ブラッド・ピット) の恋愛事情の方が色濃かったが、恋愛に悩む親友を手助けする**オーシャン**との、男の友情は見逃せない。そして、今回の、この新作でも「友情」を懸けて、仲間を集め、全員で仕返しをしに行く。そんな、常

に仕事に私情を挟む男でも、計画性に長けており、リーダーシップもあるので、チームの頼れるリーダーとしては申し分ない人物だ。

私は、彼ほどクールなリーダーは今のところいないと思う。リーダーと言えば様々な姿が想像されるが、そのほとんどが、アクション映画で勇ましく敵に向かっていくような姿だと思う。そして、自分の感情を抑え、献身的に仲間を守るという特徴が代表的だろうか。しかし、この映画では、まず、事の発端がリーダーの私情である。そして、一見関係ないような大きな任務中にも私情を挟み、チョロっと勝手な行動をとるため、命 (＝その道の職人としての) を懸けて任務遂行中の仲間まで危険にさらす。せっかくみんなが、ありえないくらいスケールのでかい仕事を、順調にやってのけているのに、**オーシャン**を見ているとヒヤヒヤする。しかし、失敗したら失敗したで、「あーあ」という顔をし、あとは先を全て読んでいるような表情でニヤリとする彼こそ、最も現実的なリーダーだと思う。しかし、もし私が作戦にはめられても、あの笑顔を見たら、得をしたとさえ思ってしまうかもしれない。

## ② ラスティ (ブラッド・ピット)

☆☆

オーシャンズメンバーの中でエースといえば、**ブラッド・ピット**演じる**ラスティ**であろう。**ブラッド・ピット**はそろそろ年を感じてきたのか、整形を考えているようだが、オーシャンズシリーズでは二枚目の役を演じているし、それがまだまだはまっている。**ラスティ**は**オーシャン** (ジョージ・クルーニー) の右腕的存在である。その二枚目な容姿に加え、優れた頭脳と行動力を持ち、お金もある。オーシャンズメンバーからもそのような印象と信頼を得ているのだ。オーシャンズ13の中で、敵役の非道なホテルオーナーの**バンク** (アル・パチーノ) の優秀な美人秘書である**スポンダー** (エレン・バーキン) を作戦遂行のために誘惑しなければならぬ時に、メンバーは満場一致で**ラスティ**が適役だと述べた。しかし、実際は**ライナス** (マット・デモン) の強い要望で彼がその役をやることになったのだが、しかし、**ラスティ**が一貫してカッコいい役どころだけを引き受けているわけではない。本編中、**バンク**のカジノを潰すために、「自然現象」を起こすことが大きなカギとなる。その**バンク**潰しのために重要な「自然現象」の一つ、「地震起こし」のくだりで、

彼は**バンク**のところへ地震調査員として乗り込むのだが、その格好やキャラクターはなんととも胡散臭いし、まったくカッコいいものとは言えないのだ。そんなところが逆に新鮮で、メンバーからも観客からも**ラスティ**という人物が良いところばかりを持って行く「すかしヤツ」とだけには思わせないのである。と言いつつも、やはり**ラスティ**は文句なしにカッコいい。よっぽどひねくれた人でなければ、ほとんどの女性は**ラスティ**を素敵だと思っだろうし、一方で男性は憧れを抱く人か、はたまた妬みを感じるかに分かれるのだと思う。

## ③ ラィナス (マット・デモン)

☆☆☆

**マット・デモン**演じる**ライナス**は、超一流詐欺師を両親に持つ、犯罪界のサラブレッド (笑)。私の一番好きなキャラクターは、**ライナス**★頑張ってるリーダー格になろうとしているけど、なかなか**オーシャン**や**ラスティ**のようにはなれずにいて、でも応援したくなっちゃいます! チームの中でも、みんなから子ども扱いされていて、なんだか可愛らしいです。オーシャンズチームは、それぞれがそれぞれの個性を持っている、みんな良いキャラしてると思います

♪そんなプロ集団の中で、**ライナス**は母性本能をくすぐるような可愛さを持ち、それでいて中心的仕事にトライしていく好奇心旺盛なヤツ。そんな**ライナス**が私は大好きです☆★どうかこの、かわいい**ライナス**を、自分の息子の成長をみる感覚で、みなさん見守ってやってください! (もうすでに母親気分♪笑)

## 2.5 マット・デイモンの補足

この映画では彼は、頭はいいけど理屈っぽく、ドジで子ども扱いされるスリの役をやっています。映画の完成試写会での舞台挨拶や、雑誌のインタヴューなどを読むと、理屈っぽさはありませんが、彼のコメントはユーモアと知性に溢れていて、映画のキャラクターと似ていると思う人も多いのではないのでしょうか。しかも、舞台挨拶となると、共演俳優達から一斉に、終始イジられる彼を見て、「オーシャンズ」シリーズの彼は「素」だと、誰もが考えると思います。そこで、「素」以外の彼の様々な一面を知ってもらうため、今までの経歴を紹介していきます。彼の代表作でもある「ボーンアイデンティティ」に始まる「ボーン」シリーズは、彼の俳優としての存在を印象付ける作品です。組織の秘

密計画に一人で立ち向かう、「強くて頭の切れる孤独な男」のイメージが、この映画の人気の上昇と共に浸透していきました。

それまでの**マット**は、彼がハーバード大学出身ということもあってか、才能に恵まれているが、なかなか幸せを掴めない学生の役か、弁護士役が多い気がします。そのため、前述した「ボーン」シリーズが出るまでは、「賢くまじめな青年」というイメージが広く知られていました。なので、舞台挨拶などで、話す彼を見ると、「頭は良さそうだけど、やっぱり役とは少し違う」と、彼自身と役とを同一人物と考えることはありませんでした。

「ボーン」シリーズでは、先に言ったように、彼にクールなイメージを持たせる役柄でした。しかし、この作品について終始ニコニコ可愛らしく話し、主人公との共通点についての話題では「僕は普段からドジですから」と答えるかわい伊彼に、役柄を重ねた人は、居ないのではないのでしょうか。また、このインタヴューで「もし自分が、ボーンのような状況に置かれたら?」という記者からの質問に、「最初の方で死んでるね」とも言っていました。弱すぎるよ!

そのような経歴の中、「オーシャンズ」シリーズに出演し、「ボーン」シリーズ同様、大ヒ

ット作品となり、彼の代表作が一つ増えることとなりました。しかし、このように今までの役暦を見ると、この「オーシャンズ」シリーズの**マット**は本当に、「素」の彼に一番近いのではないかと思います。彼の映画は、受賞作品が多く、観て損をすることはまずないので、ぜひチェックしてみてください。

最後に、この映画に関連して、毎年アメリカのPeople誌で発表される、「最もセクシーな男」について紹介します。その賞では、**ジョージ・クルーニー**、**ブラッド・ピット**は受賞の常連です。しかし、ここ数年、このオーシャンズチームで、イジられ役のお子ちゃま**マット**をこの賞に推す動きがありました。**ジョージ**や**ブラビ**は、公に出るたびに「**マット**は世界一セクシーだ」とメディアにふれまわっており、その甲斐あってか、2007年の最もセクシーな男に**マット・デイモン**が選ばれました!しかし、謙虚な彼は、「嬉しいけど自分はふさわしくないから...」と、代わりにスポーツ選手を推薦して、受賞を辞退してしまいました。

**PS.** その謙虚な身の引き方がセクシーなんだよ!



## 3. 仲間を見つけよう

さて、彼らの魅力が伝わったでしょうか。ここでは、まだこれから観ようとしている人や、3作全て観賞済みの人でも、魅力に気付けるように、お伝えしました。もし、興味が湧いて、すぐ観てみようと思った人や、もう1回観てみようかと思った人は是非ご覧下さい。20号館の3階、言語研究センターなら、授業の空き時間を使って、1人でゆっくりと映画が見られます。

人によって観方は様々だと思いますが、やっぱり1作目から観た方が楽しめると思います。あと、今更言うことでもないですが、この映画は**11**、**12**、**13**から成る3作品です。タイトルの数字は、その作品に出てくる、オーシャンズチームの人数です。終わりにありますが、この記事を書いて、私たちは、大学生活で最高の仲間と出会い、オーシャンズのようなチームを完成させたいと思いました。そのために、自分の能力を磨いて、魅力的な人間に...やっぱり、早寝早起きという、基本にして究極のリズムを身につけることで、成功への道が見えてくると思います。皆さんも色んな映画から、色々な事を学び取って成長して下さい!

### 画像リンク

<http://kswcd.blog14.fc2.com/blog-date-200605.html>  
<http://www.eigaseikatu.com/title/img-17669/1/>